

大牟田市立大牟田特別支援学校

1 本校のE S Dの特徴

本校では、「すべての人が質の高い教育の恩恵を享受できるようにする」「持続可能な開発のために求められる原則、価値観及び行動が、あらゆる教育や学びに取り込まれるようにする」「環境、経済、社会の面において持続可能な将来が実現できるような価値観と行動の変革をもたらすようにする」ことを重点目標とし、「交流及び共同学習」を核としたE S Dを推進している。

本校における「交流及び共同学習」は、近隣の天の原小学校、宮原中学校、有明工業高等専門学校との行事交流を中心に30年以上の歴史がある。また、子どもの居住地を校区とする市内各小・中学校との交流も増え、居住地校交流も盛んである。地域交流では、地域の方々を招待する学習発表会をはじめとして、サンアビ祭りや勝立地区公民館文化祭への児童生徒作品の出展など地域との交流を深めている。

さらに、平成24年度より、ユネスコスクール加盟校である新潟県見附市立見附特別支援学校との交流が始まり、お互いの学校紹介や学部紹介、作品交換などを行っている。令和2年11月現在、国内においてユネスコスクールに加盟している特別支援学校は、本校と見附特別支援学校を含め12校である。令和2年度は、新型コロナウイルス感染予防のため、交流及び共同学習は、作品交換などの間接交流に変更したり、参加人数を制限したりしての実施となった。

2 ユネスコスクールとしての活動・全体計画（◎：実施した活動 □：間接交流等に内容を変更して実施した活動 ○：実施を見合わせた活動）

	小学部	中学部	高等部	訪問教育
学 校 間 交 流	○七夕交流(6月) ○なかよし交流(10月) ○合同運動会(11月) □みんなで遊ぼう交流 (12月)	○七夕飾り交流(6月) ○七夕交流(6月) ○合同運動会(11月) □クリスマス会交流 (12月) □わくわく交流(2月)	○高専音楽交流(9月) ○合同運動会(11月) □高専作業交流(2月)	○合同運動会(11月)
◎新潟県見附市立見附特別支援学校との交流(1学期:小学部・2学期:高等部・3学期:中学部)				
居 住 地 校 交 流	○子どもの居住地を校区とする市内各小学校	○子どもの居住地を校区とする市内各中学校		
地 域 交 流	◎学習発表会(9月) ○サンアビ祭出展(11月) ○勝立地区文化祭出展 (11月) ◎合同作品展(2月)	◎学習発表会(9月) ○サンアビ祭出展(11月) ○勝立地区文化祭出展 (11月) ◎合同作品展(2月)	◎学習発表会(9月) ◎世界遺産学習(10月) ○サンアビ祭出展(11月) ○勝立地区文化祭出展 (11月) ◎合同作品展(2月) □ゆめタウン販売(2月)	◎学習発表会(9月) ○サンアビ祭出展(11月) ○勝立地区文化祭出展 (11月) ◎合同作品展(2月)

3 特徴的な活動事例



＜「国内外学校間交流」－見附特別支援学校との作品交流－＞



本校は、同じユネスコスクール加盟校である新潟県見附市立見附特別支援学校と、平成24年度から交流を続けてる。上の写真は、本校の児童が見附特別支援学校の友達のために作成した「ひまわりの海」である。子供たちは、手形を様々な海の生き物に見立てて表現した。1人で魚やたこ、いか、クラゲを作ったり、2人で協力してかにやサメを作ったりした。下の写真は、見附特別支援学校小学部の友達から届いた作品「クジラと海の仲間たち」である。この作品は、本校児童がよく活動する教室の前の廊下に掲示している。

＜「学校間交流（クリスマス会交流）」－中学部生徒と宮原中生徒とのクリスマスカード交換交流－＞



毎年、生徒が協力し合って、一緒に飾りつけや歌・ゲームを行う中で、集団で活動することの楽しさを味わい、相互のふれあいを深めることをねらいとして行っている。

今年度は新型コロナウイルス感染防止のため、直接交流は行わず、手作りのクリスマスカード交換を実施した。生徒たちは「会いたかったなあ。」「来年は会えたらいいな。」という思いを込めて、クリスマスカードを作成した。（左写真）宮原中学校からのクリスマスカードやプレゼントを受け取った生徒たちは、とても嬉しそうな表情を浮かべていた。

＜「国内外学校間交流」－高等部1・2年生と新潟県見附市立見附特別支援学校との作品交流－＞



2学期の世界遺産学習では、講師を招いて、大牟田市の宝「宮原坑」（世界文化遺産）の歴史的価値を学んだ。その学習をもとに、見附特別支援学校の皆さんにも、大牟田の宝「宮原坑」のすばらしさを知ってもらおうと、「宮原坑」の貼り絵を1・2年生が合同で作成し、完成作品を送付した。また作品とともに制作した理由や制作過程も写真入りでまとめて送付し、大牟田への思いを深めました。



4 本年度の成果と課題

○成果

- ・新型コロナウイルス感染予防のため、活動が制限された中での学校間交流や地域交流等であったが、実施方法を工夫して活動を継続し、他者と関わろうとする意欲に高まりが見られた。
- ・学校生活の様々な場面で、自分の気持ちや考えをまとめたり、伝えたりする力が身に付いてきていることがわかるような姿が見られるようになった。

○課題

- ・令和3年度の活動計画・内容については、これまでの交流・共同学習の実績をもとに、新型コロナウイルス感染状況を踏まえながら、随時、活動計画や活動内容の見直しをしていく必要がある。